

5月17日(日)

山口県萩の

真あび

今が旬
脂がのった

寿司盛り

刺身盛り

各1パック

980円(税込)



西田鮮魚店

72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489
(旧庄原市内はご自宅に配達)

こんにちは、奥原です。最近朝は肌寒く、日中は夏日のようで、朝は長袖で仕事終わりにには、半袖で出勤すれば良かったと思うような温度差ですね。
そんな時期に美味しい魚がアジ！その中でも山口県萩市の瀬付き鰯、5月から8月頃まで脂がしっかりと乗って、その身も黄色っぽくなり黄鰯「キアジ」と呼ばれます。焼いてよし！唐揚げよし！南蛮もよしですが、今回は今の旬のアジを、お刺身盛り合わせと寿司盛り合わせという形でご提供させて頂きます！
アジの握りの上には、あたりネギという、青ネギを細かく刻み、すりおろした生姜とともにすり鉢で、全体が粘り気を持つまで丁寧すり合わせた薬味を乗せ風味豊かにアジの美味しさを味わえるよう工夫も添えております。
私ごとですが来月また旅行を計画中で、釣り旅行しようかなと思っています。今回はアジでも狙って、嫁さんに自慢しながら食べさそうかと思つてますが、もしも私が私服でコンソコとアジ買つたら、どうかそとしておいて下さい(笑)それでは本日も皆様のお越し心からお待ちしております！

『二才のお祝いと宝塚花のみち』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



I スマホひとつでどこでも行ける

チャットGPTに尋ねた。

「宝塚市にある『日本料理 木曽路』に近いホテルを教えてください」と、「一番バランスがいい(近い&きれい)」として『宝塚ホテル』を真っ先にあげてきた。「木曽路から約1.8km(車で5分ほど)。宝塚大劇場の公式ホテルで雰囲気が良い。駅近でアクセスも便利。ちょっと特別感のある宿泊にむいてます。」

その他に、温泉に入りたいならとか、安めビジネス寄りとか、少し離れてもOKならとかで、3つのホテルを教えてくださいました。

この日は悦子と、兵庫に住む三女の実業家の娘さくらの一才の誕生の祝いに行く。特別感のあるホテルがいい。宝塚ホテルにしよう。『トリバゴ』で予約した。誰の手もわずらわせないですむ。便利だ。当日、車に乗り込みスマホに向かって「宝塚ホテル」と、ひと言。経路、距離、到着時間が表示される。娘が指定してきた11時半には充分まにあう。8時出発。便利だ。

大阪方面には、けっこう走っているから。だいたいの距離感はわかっている。勝央SAでトイレ休憩。11時20分、店に着いた。ちょうど嫁ぎ先のご両親の車が駐車場に入るところ。続けて入った。日曜日の昼とあって駐車場はいっぱいだ。

それにしても便利だ。スマホひとつでどこでも行ける。宝塚ICで降りたのは初めてだが、なんの不安もない。ありがたいことだ。

II 一才おめでとう

木曽路は『しゃぶしゃぶ』が名物の和食レストラン。昭和50年代、全国にすかいらーくやサンデーサンなどのファミリレストランが雨後のたけのこのようにできたが、その和食版。名古屋が発祥だから中部地方を中心に展開していた。すこし高級な感じの店だった。あのころ30代の私は、あんな店をつくりたいと憧れたものだ。

娘一家が到着。個室に案内される。

まずはお決まりの一升餅を背負わせる。きゃしゃな孫娘は、ひっくり返って身動きできない。ぎゃん泣きだ。とても、将来占いの『物』を取りにくどころではない。まあ、本物でなくカードに絵を描いたものだったから、一才の赤ちゃんにはわからない。親の希望で『お金』の絵を持たせた。みんなで記念写真。仲居さんが「チーズ」の代わりに「キンジュー」と言ったのには笑った。

えびとかにが大嫌いな婿殿の和弥君は『ステーキ御膳』を用意してくれていた。2才の孫息子がごそごそする。二人の婆ばが世話をやくのを横目に、二人の爺じはテーブルの隅の席で差し向かい。

昼の酒はよくまわる。

ほろ酔いの私の頭の中では、コロナの時に閉店した『鄙の料亭地御前』のことがよぎっていた。初孫の梨子の時は地御前で誕生を祝った。あのころのスタッフたちの、もてなしのみごとさが甦る。良い店だった。素晴らしいスタッフだった。もったいなかったなあ。お開きになり、和弥君のご両親の気遣いで、娘一家と近くの『らぼーと甲子園』へ。大きなショッピングモールだ。『ソレイユ』の倍くらいあるんじゃないだろうか。「いいなあ、こんなモールがあればなあ」とひとり言。どうしても、ジョイフルのことを考えてしまう。比べるべくもないが。

さくらの『ファーストシューズ』を買うという。しばらくは後について回ったが限界だ。2才の怜を連れて婿殿と私は近くのソフトリウム屋さんへ。買い物をするときの悦子は疲れを知らない。シューズを手にした実業家は満面の笑み。母と娘の絆はこんなところで強くなるのかもしれない。父はおいてけぼりだ。

III 宝塚花の道を歩く

娘一家と別れて宝塚ホテルに向かう。運転は悦子。酔った私は助手席へ。ナビにおまかせだ。迷うことなく到着。便利だ。

宝塚ホテルにして正解だった。ロビーも二階も『ザ・宝塚』。歴史を感じる。華やかな衣装がそここに。二階への階段も思わず歩きたくなる。宝塚劇場の巨大な階段というわけにはいかないが。

部屋に入った私には仕事が……。今夜の食事をまだ決めてない。せっかくの宝塚の夜だ。おいしい料理を食べたい。店を探すのは私の役目。しかし、日曜日の夜だ、いい店はだいたい満席にちがいない。ここでもチャットGPTの出番だ。

「宝塚ホテルのまわりのパスタのおいしい店は？」

いくつか候補があがった。「パスタが評判の落ち着いたお店・記念日や大人の食事にも使われる店」と紹介してくれた『カロスキューマ』という店がよさそうだ。すぐに電話。空いていた。よかった。マスターの声も明るい。6時に予約した。便利だ。

早めに部屋を出た。玄関を出て驚いた。ホテルの隣はあの『宝塚大劇場』。そして目の前に『花のみち』と呼ばれるプロムナードが春だ。パンジーやビオラやチューリップが咲きほこる。まわりより少し高い丘のような小道を歩いた。

悦子は大きなクスノキに感動したようで写真におさめていた。そんな悦子を『ベルサイユのばら』の像の前に立たせてパチリ。

とても素敵な、自然というより宝塚の舞台のような小道だった。その道のまわりに立つ建物もスペイン瓦の茶系に統一されている。

庄原の町づくりもこうありたいもんだ。統一感が大切だ。

そんなシャレた街並みには、ビストロやカフェ、手づくりの小物やヨーロッパの雑貨の店が並んでいる。残念ながら店はもう閉まっいて窓からのぞくだけだったが、悦子の心をとらえたみたいだ。もう一度来なくては。

宝塚大劇場の前でも写真を撮った。ここまで来ると、やっぱり舞台を観たい。悦子とそう話した。だが、実は私は一度観たことがある。中学校の修学旅行。ただその公演の演目が『おてもやん』。ちよっと、宝塚らしくないというか地味だった。中学生ながら、がっかりしたのを覚えている。レビューは素晴らしかった。やっぱり宝塚は華やかでなくては。『ベルばら』みたいな方がいい。チケットが取れないらしいが……。

そうして寄り道しながら『カロスキューマ』に行った。

劇場の横を流れる武庫川にかかる『宝来橋』を渡り切った小道にある小さなビルの二階。思ったとおりの、テーブルが4つほどの小さなお店。白ワインを一本開け、赤ワインをグラスで一杯。オーナーシェフが腕をふるう店は外さない。当たりだ。

お店を出ると雨。濡れながら走って近くのコンビニへ。ビニール傘を買った方がいいが、橋の上を強風が吹く。傘が漏斗に。顔を見あわせて笑った。いい思い出だ。

明日は大阪だ。



ベルサイユのばら
オスカルとアンドレの像
—宝塚花のみち—